

伝統工芸品等のデザイン・商品化に関する研究

－配色データの活用（第1報）－

Study of the traditional works which adopted design awareness －Utilization of color scheme data (Part 1)－

館山 大、小野 大輔、鳴海 藍、小松 勇

平成 27～28 年度の「現代生活空間における漆の配色に関する研究」で作成した「配色データ」を新商品に応用するために実施した取組み「夢モダンプロジェクト」について報告する。

事例として「モダン家屋」を対象とする新配色の工芸品を試作・検証することとし、「新しい」「斬新な」というキーワードを想起させる「モダン家屋」の配色傾向（図 1）に従い、今回は「白い空間を基調とした室内」とそれに合う「パステルカラーの工芸品」という配色仮説を設定した。部屋に見立てた白を基調としたブースをデザイン設計し、ブース制作と工芸品試作を弘前工芸協会に委託した。試作品は漆工、木工、陶芸、こぎん刺しの 4 種、計 42 品目で、今までに無い配色の工芸品となった（写真 1）。

これらを 2 つの展示会に出展し、アンケートにより一般消費者の意見を聴取した。1 回目の弘前工芸協会展（写真 2：平成 30 年 6 月 15～18 日）の調査対象は工芸品に厳しい目を持つ消費者、2 回目の弘前工業研究所公開デー（写真 3：平成 30 年 7 月 26～27 日）の調査対象は一般的な消費者と考えられた。延べ 167 名が回答し、全体の 9 割から肯定的な回答を得た。

今回の取組みで配色の仮説の妥当性が把握できたことから、今後の活用が期待される。

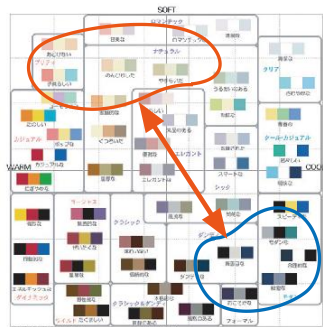


図 1 モダン家屋の想定イメージスケール



写真 1 試作品(陶器)



写真 2 展示ブース（弘前工芸協会展）



写真 3 展示ブース（弘前工業研究所公開デー）